

# 2016年度 第2四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2016年10月27日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## 2016年度上期 業績 (2016年4月～9月)

(単位: 億円)

	2015年度上期	2016年度上期	対前年度	為替影響	為替影響除く
売上高	12,261 100.0%	11,209 100.0%	-1,052 -8.6%	-989	-63 -0.5%
営業利益	807 6.6%	635 5.7%	-172 -21.3%	-233	61 +7.5%
税金等調整前 四半期純利益	846 6.9%	606 5.4%	-240 -28.4%		
当社株主帰属 四半期純利益	469 3.8%	335 3.0%	-134 -28.5%		
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	98.84円	74.67円	-24.17円		
為替 :米ドル :ユーロ	122円 135円	105円 118円	17円高 17円高	<その他増減要因(対前年度)> 営業利益 原材料: +55億円	

2016年度上期は、

為替の円高による989億円のマイナス影響などにより、売上は前年比8.6%減の1兆1,209億円となりましたが、

為替影響を除けば、ほぼ前年並となりました。

為替影響を強く受ける状況下でもフラットパネルディスプレイ材料事業、電子材料事業などが売上を伸ばしました。

また、営業利益については、

為替の円高による233億円のマイナス影響などにより、前年比21.3%減の635億円となりましたが、オペレーションベースでは、前年比7.5%増の増益となりました。

また、営業外収益及び費用で為替差損が76億円発生したものの、投資有価証券売却益40億円を計上したことでマイナス幅を圧縮し、

税金等調整前四半期純利益は前年比28.4%減の606億円、

当社株主帰属四半期純利益は前年比28.5%減の335億円となりました。

## セグメント別: 連結売上高 / 営業利益

(単位: 億円)

売上高	上期		対前年度		為替影響	為替影響除く
	2015年度	2016年度				
イメージング	1,731	1,532	-199	(-11.5%)	-206	7 (+0.4%)
インフォメーション	4,604	4,316	-288	(-6.3%)	-419	131 (+2.8%)
ドキュメント	5,926	5,361	-565	(-9.5%)	-364	-201 (-3.4%)
合計	12,261	11,209	-1,052	(-8.6%)	-989	-63 (-0.5%)

\*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	上期		対前年度		為替影響	為替影響除く
	2015年度	2016年度				
イメージング	124	89	-35	(-28.5%)	-62	27 (+21.7%)
インフォメーション	348	327	-21	(-6.0%)	-107	86 (+24.7%)
ドキュメント	483	369	-114	(-23.7%)	-64	-50 (-10.5%)
全社/連結調整	-148	-150	-2		0	-2
合計	807	635	-172	(-21.3%)	-233	61 (+7.5%)

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、

前年比11.5%減の1,532億円、為替影響を除くと前年比0.4%増の増収となりました。

営業利益は、前年比28.5%減の89億円、為替影響を除くと前年比21.7%増の大幅増益となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、

前年比6.3%減の4,316億円、為替影響を除くと前年比2.8%増の増収となりました。

営業利益は、前年比6.0%減の327億円、為替影響を除くと前年比24.7%増の大幅増益となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、

前年比9.5%減の5,361億円、為替影響を除くと前年比3.4%減の減収となりました。

営業利益は前年比23.7%減の369億円、為替影響を除くと前年比10.5%減の減益となりました。

オペレーションベースでは、第1四半期は減益でしたが、第2四半期の3ヶ月では9.7%増の増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

売上高		対前年度		営業利益		前年比	
1,532	-199	(-11.5%)	89	-35	(-28.5%)		

(単位:億円)

- ・ フォトイメージングでは、為替の影響などにより売上は減少したが、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。  
フォトブックなどの付加価値プリントビジネスも拡大。
- ・ 電子映像では、為替の影響などにより売上は減少したが、フラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」、「FUJIFILM X-T2」および交換レンズの販売が伸長。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少。

為替の円高によるマイナス影響などにより減収減益  
オペレーションベースでは増収増益

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移しました。

また、フォトブックなどの付加価値プリントビジネスも拡大しました。

電子映像では、為替の影響などにより売上は減少したものの、フラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」や「FUJIFILM X-T2」および交換レンズの販売が伸長しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少しました。

他社に先駆けて発売した4Kカメラ対応の放送用ズームレンズは画質面で高い評価を受けており、ワールドワイドのシェア拡大を図ります。

イメージング ソリューション部門は、為替の円高によるマイナス影響などにより、減収減益となりましたが、オペレーションベースでは増収増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
4,316	-288 (-6.3%)	327	-21 (-6.0%)

(単位:億円)

- ・メディカルシステムでは、為替の影響などにより売上は減少したが、医療ITなど成長分野での販売は堅調に推移。医薬品は低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより売上は減少したが、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移。再生医療は事業拡大に向けた活動を推進。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、販売が堅調に推移し売上が増加。「WVフィルム」の販売が増加。
- ・産業機材では為替の影響などにより売上は減少したものの、「エクスクリア」の販売が好調に推移。電子材料はフォトリソ周辺材料の先端製品などの販売が堅調に推移し、売上が増加。
- ・記録メディアは為替の影響などにより売上は前年並みだったが、オンリーワン技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、為替の影響などにより売上は減少したがデジタルプリンティング機器などの販売が堅調に推移。

為替の円高によるマイナス影響などにより減収減益  
オペレーションベースでは増収増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、医療ITなど成長分野での販売は堅調に推移しました。

医薬品は、低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより、売上は減少したものの、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移しました。また、研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進しています。

再生医療では、網膜疾患治療の世界的権威であるDr. David Gammと他家iPS細胞を用いた網膜疾患の治療法を開発する新会社を米国に設立するなど、事業拡大に向けた活動を推進しています。

また、米国などに続きCellular Dynamics International社のiPS細胞作製に関わる主要な特許が日本でも成立し、今後iPS細胞の受託生産ビジネスを拡大していきます。

ライフサイエンスでは、美白美容液「アスタリフトホワイト エッセンスインフィルト」や高機能化粧水「アスタリフト モイストローション」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、販売が堅調に推移し売上が増加しました。中でも「WVフィルム」の販売が増加し、好調です。

産業機材では、為替の影響などにより売上は減少したものの、「エクスクリア」の販売が好調に推移しました。

電子材料ではフォトリソ周辺材料の先端製品などの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。

記録メディアは、為替の影響などにより売上は前年並みだったものの、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などのオンリーワン技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移しました。

グラフィックシステムでは、為替の影響などにより売上は減少しましたが、デジタルプリンティング機器などの販売が堅調に推移しました。

インフォメーション ソリューション部門は、為替の円高によるマイナス影響などにより、減収減益となりましたが、フラットパネルディスプレイ材料や電子材料などで売上を伸ばし、オペレーションベースでは増収増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)					
売上高	対前年度		営業利益	前年比	
5,361	-565	(-9.5%)	369	-114	(-23.7%)

- ・ オフィスプロダクトの販売台数は前年並み。国内ではモノクロ機が好調に推移、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加。
- ・ オフィスプリンターは、欧米向け輸出を中心に販売台数が減少したが、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機が好調に推移。
- ・ プロダクションサービスの販売台数は減少したが、国内の販売台数は増加。
- ・ グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域ともに、マネージド・プリント・サービスが順調に推移。

アジアローカル通貨安によるマイナス影響や  
欧米向け輸出の減少などにより減収減益

6

ドキュメント ソリューション部門については、  
欧米向け輸出の売上がオフィスプリンター事業を中心に減少したことに加え、  
為替の円高によるマイナス影響などにより、減収となりました。

オフィスプロダクトは、全体での販売台数は前年並みとなりました。

国内ではモノクロ機の販売が好調に推移、

アジア・オセアニア地域においては、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加しました。

オフィスプリンターは、国内や欧米向け輸出で販売台数が減少し、全体で販売台数が減少しましたが、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機の販売が好調に推移しました。

プロダクションサービスの販売台数は減少しましたが、国内の販売台数は増加しました。

グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域ともにマネージド・プリント・サービスが順調に推移しました。

営業利益は、アジアローカル通貨安の影響と欧米向け輸出の減少などにより、減益となりましたが、

第2四半期の3ヶ月においては、為替影響を除くオペレーションベースでは増益となりました。

引き続き、グローバルサービス等の成長領域の拡大や、アジア・オセアニア地域でのさらなる  
拡販を進めるとともに、経費削減及び原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

## 連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	14年度末	15年度末	16年9月末	対15年度末		14年度末	15年度末	16年9月末	対15年度末
現金及び現金同等物	7,269	6,009	6,500	491	長短社債及び借入金	3,497	3,657	3,819	162
受取債権	6,810	6,639	5,661	-978	支払債務	2,690	2,593	2,282	-311
棚卸資産	3,725	3,529	3,412	-117	その他流動固定負債	4,705	4,548	4,079	-469
その他流動資産	1,628	1,716	1,384	-332	負債計	10,892	10,798	10,180	-618
流動資産計	19,432	17,893	16,957	-936	株主資本計	22,327	20,545	19,356	-1,189
有形固定資産	5,274	5,341	5,149	-192	非支配持分	2,347	2,294	2,211	-83
営業権	5,050	5,069	4,773	-296	純資産計	24,674	22,839	21,567	-1,272
投資有価証券 その他資産	5,810	5,334	4,868	-466	負債・純資産合計	35,566	33,637	31,747	-1,890
固定資産計	16,134	15,744	14,790	-954	(単位:円)				
資産合計	35,566	33,637	31,747	-1,890	期末日為替レート	14年度末	15年度末	16年9月末	対15年度末
					米ドル	120	113	101	12円高
					ユーロ	130	128	113	15円高

次に、バランスシートについてご説明します。

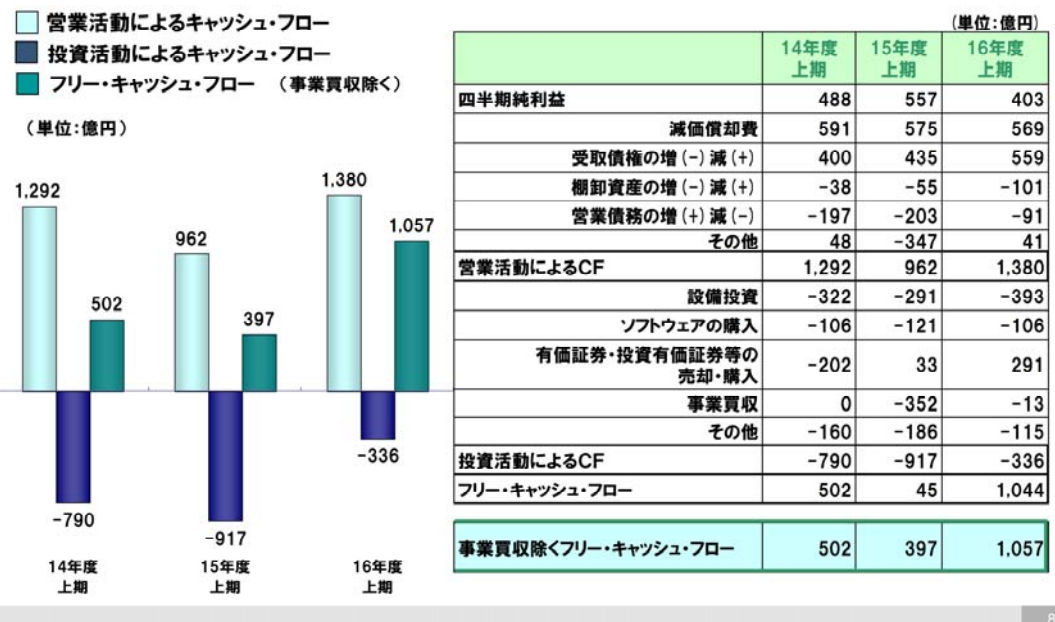
2016年9月末時点の資産合計は、

受取債権の減少などにより、2016年3月末時点と比べ、1,890億円減の3兆1,747億円となりました。

負債は618億円減の1兆180億円、株主資本は円高による為替換算影響などにより、1,189億円減の1兆9,356億円となりました。

流動比率は、4.7ポイント減の289.0%、負債比率は同ポイントの52.6%、株主資本比率は0.1ポイント減の61.0%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

## キャッシュ・フロー



続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,380億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資などにより、336億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは1,044億円の収入となりました。

以上で、2016年度第2四半期決算の説明とさせていただきます。



## 2016年度 連結業績予想 (2016年10月27日時点)

(単位:億円)

	2015年度	2016年度 (前回予想)	2016年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
売上高	24,916 100.0%	25,500 100.0%	24,000 100.0%	-1,500 -5.9%	-916 -3.7%
営業利益	1,912 7.7%	2,200 8.6%	1,920 8.0%	-280 -12.7%	8 +0.4%
税金等調整前 当期純利益	1,945 7.8%	2,200 8.6%	1,920 8.0%	-280 -12.7%	-25 -1.3%
当社株主帰属 当期純利益	1,233 4.9%	1,250 4.9%	1,120 4.7%	-130 -10.4%	-113 -9.2%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	264.87円	277.47円	252.51円	-24.96円	-12.36円
ROE	5.8%	6~7%	6%程度	—	—
為替 :米ドル	120円	110円	105円	5円高	15円高
:ユーロ	133円	125円	117円	8円高	16円高
銀価格(/kg)	60,000円	60,000円	60,000円	—	—

\*2016年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

\*下期の為替レートは 米ドル:105円、ユーロ:115円を想定しております

9

続きまして、2016年度通期の連結業績予想について、ご説明いたします。

上期の当社業績は、為替の円高影響を受け、売上、営業利益ともに計画を下回った進捗でした。

この状況を踏まえ、通期連結業績予想を下方修正いたします。

売上高は前年比3.7%減の2兆4,000億円、営業利益は前年比0.4%増の1,920億円と増益を確保いたします。

また、税金等調整前当期純利益は前年比1.3%減の1,920億円、当社株主帰属当期純利益は前年比9.2%減の1,120億円に修正いたします。

なお、下期の為替レートは、米ドル対円を105円、ユーロ対円を115円で想定しております。

以上、2016年度第2四半期決算及び通期業績予想についてご説明いたしました。

ご静聴頂き、ありがとうございました。

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2016年度第2四半期 決算説明会

## 参考資料

## 2Q/上期 業績

	2015年度2Q	2016年度2Q	対前年度	2015年度上期	2016年度上期	対前年度
売上高	6,352 100.0%	5,739 100.0%	-613 -9.6%	12,261 100.0%	11,209 100.0%	-1,052 -8.6%
営業利益	445 7.0%	359 6.3%	-86 -19.3%	807 6.6%	635 5.7%	-172 -21.3%
税金等調整前 四半期純利益	400 6.3%	389 6.8%	-11 -2.8%	846 6.9%	606 5.4%	-240 -28.4%
当社株主帰属 四半期純利益	226 3.6%	223 3.9%	-3 -1.1%	469 3.8%	335 3.0%	-134 -28.5%
為替 :米ドル	122円	102円	20円高	122円	105円	17円高
:ユーロ	136円	114円	22円高	135円	118円	17円高

\*営業利益 増減要因(上期 対前年度) 為替:-233億円、原材料:+55億円

<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	882	765	-117 (-13.2%)	1,731	1,532	-199 (-11.5%)
インフォメーション	2,423	2,238	-185 (-7.6%)	4,604	4,316	-288 (-6.3%)
ドキュメント	3,047	2,736	-311 (-10.2%)	5,926	5,361	-565 (-9.5%)
合計	6,352	5,739	-613 (-9.6%)	12,261	11,209	-1,052 (-8.6%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	79 [8.9%]	36 [4.7%]	-43 (-54.5%)	124 [7.1%]	89 [5.7%]	-35 (-28.5%)
インフォメーション	199 [8.2%]	177 [7.9%]	-22 (-11.0%)	348 [7.5%]	327 [7.6%]	-21 (-6.0%)
ドキュメント	242 [7.9%]	223 [8.1%]	-19 (-8.3%)	483 [8.1%]	369 [6.8%]	-114 (-23.7%)
全社/連結調整	-75	-77	-2	-148	-150	-2
合計	445 [7.0%]	359 [6.3%]	-86 (-19.3%)	807 [6.6%]	635 [5.7%]	-172 (-21.3%)

13

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 2Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

### ■ イメージング ソリューション

- 為替の影響などにより売上は減少したが、インスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。
- 電子映像は、為替の影響などにより売上は減少したものの、9月に発売した「FUJIFILM X-T2」などのフラッグシップモデルの販売が伸長。

### ■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは為替の影響などにより売上は減少したが、医療IT、IVD(体外診断)など成長分野での販売は堅調に推移。  
医薬品は、低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより売上が減少。
- フラットパネルディスプレイ材料は、「WVフィルム」の販売が増加。
- 産業機材は、為替の影響により売上は減少したが「エクスクリア」の販売は堅調。電子材料はフォトリソ周辺材料の先端製品の販売が堅調に推移。

### ■ ドキュメント ソリューション

- アジアローカル通貨安によるマイナス影響などにより、減収減益。

<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
フォトイメージング	618	530	-88 (-14.0%)	1,201	1,056	-145 (-12.0%)
電子映像	162	151	-11 (-6.6%)	325	310	-15 (-4.5%)
光学デバイス	102	84	-18 (-18.6%)	205	166	-39 (-19.2%)
光学・電子映像	264	235	-29 (-11.3%)	530	476	-54 (-10.2%)
合計	882	765	-117 (-13.2%)	1,731	1,532	-199 (-11.5%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	79 [8.9%]	36 [4.7%]	-43 (-54.5%)	124 [7.1%]	89 [5.7%]	-35 (-28.5%)

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

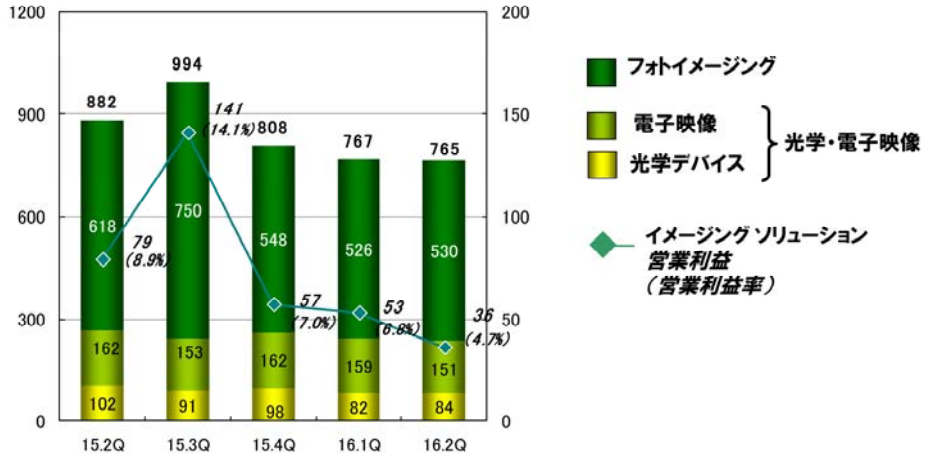
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージングソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>



## 2Q/上期 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
ヘルスケア	1,040	970	-70 (-6.7%)	1,920	1,801	-119 (-6.2%)
フラットパネル ディスプレイ材料	247	248	1 (+0.4%)	456	485	29 (+6.4%)
産業機材/電子材料	269	265	-4 (-1.6%)	522	517	-5 (-0.9%)
高機能材料	516	513	-3 (-0.6%)	978	1,002	24 (+2.5%)
記録メディア	110	119	9 (+7.5%)	218	217	-1 (-0.8%)
グラフィックシステム	740	631	-109 (-14.6%)	1,455	1,272	-183 (-12.5%)
その他	17	5	-12 (-69.9%)	33	24	-9 (-29.2%)
合計	2,423	2,238	-185 (-7.6%)	4,604	4,316	-288 (-6.3%)

\*セグメント間取引消去後

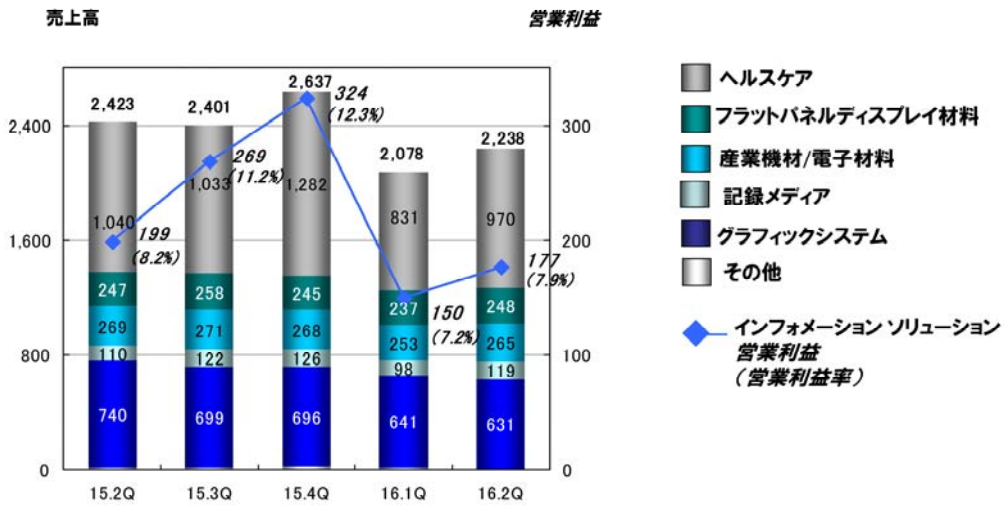
(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
インフォメーション	199 [8.2%]	177 [7.9%]	-22 (-11.0%)	348 [7.5%]	327 [7.6%]	-21 (-6.0%)

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーションソリューション (単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

## 2Q/上期 業績

## ■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,312	1,188	-124 (-9.5%)	2,567	2,376	-191 (-7.4%)
オフィスプリンター	486	418	-68 (-14.0%)	1,001	810	-191 (-19.1%)
プロダクションサービス	425	357	-68 (-15.9%)	805	693	-112 (-13.9%)
グローバルサービス	503	482	-21 (-4.3%)	943	928	-15 (-1.7%)
その他	321	291	-30 (-9.1%)	610	554	-56 (-9.1%)
合計	3,047	2,736	-311 (-10.2%)	5,926	5,361	-565 (-9.5%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2015年度	2016年度	対前年度	2015年度	2016年度	対前年度
ドキュメント	242 [7.9%]	223 [8.1%]	-19 (-8.3%)	483 [8.1%]	369 [6.8%]	-114 (-23.7%)

19

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

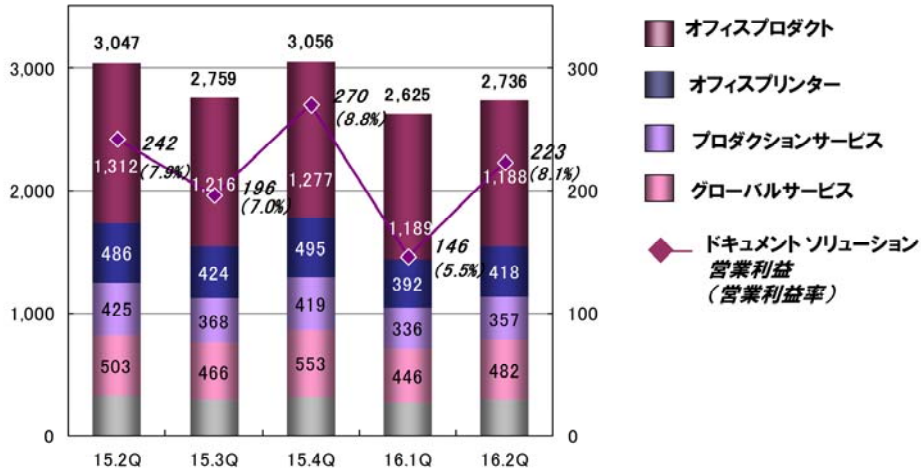
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2015年度 上期		2016年度 上期		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	39.0%	4,780	42.0%	4,702	-78	(-1.6%)
米州	21.1%	2,583	19.3%	2,170	-413	(-16.0%)
欧州	11.1%	1,364	11.1%	1,245	-119	(-8.7%)
内、中国	11.3%	1,389	11.5%	1,293	-96	(-6.9%)
アジア他	28.8%	3,534	27.6%	3,092	-442	(-12.5%)
海外	61.0%	7,481	58.0%	6,507	-974	(-13.0%)
合計	100.0%	12,261	100.0%	11,209	-1,052	(-8.6%)

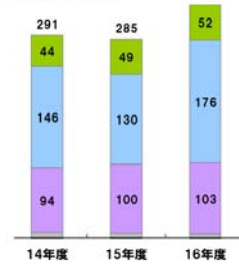
21

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

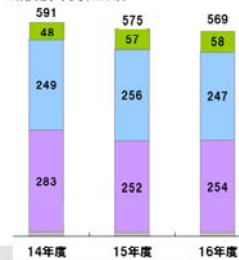
## 設備投資、減価償却費

- イメージング ソリューション
- インフォメーション ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- コーポレート

設備投資(上期)



減価償却費(上期)



(単位:億円)

年度	2Q			上期			通期		
	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016 (予想)
イメージング	29	31	31	44	49	52	79	101	-
インフォメーション	80	59	80	146	130	176	293	393	-
ドキュメント	55	63	60	94	100	103	173	233	-
コーポレート	4	4	4	7	6	5	16	14	-
<b>設備投資 ※</b>	<b>168</b>	<b>157</b>	<b>175</b>	<b>291</b>	<b>285</b>	<b>336</b>	<b>561</b>	<b>741</b>	<b>890</b>
イメージング	24	26	28	48	57	58	111	129	-
インフォメーション	127	129	122	249	256	247	510	520	-
ドキュメント	144	128	119	283	252	254	587	545	-
コーポレート	5	6	5	11	10	10	21	20	-
<b>減価償却費</b>	<b>300</b>	<b>289</b>	<b>274</b>	<b>591</b>	<b>575</b>	<b>569</b>	<b>1,229</b>	<b>1,214</b>	<b>1,130</b>
有形固定資産の減価償却費 ※	166	155	147	323	307	288	651	659	620

※ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

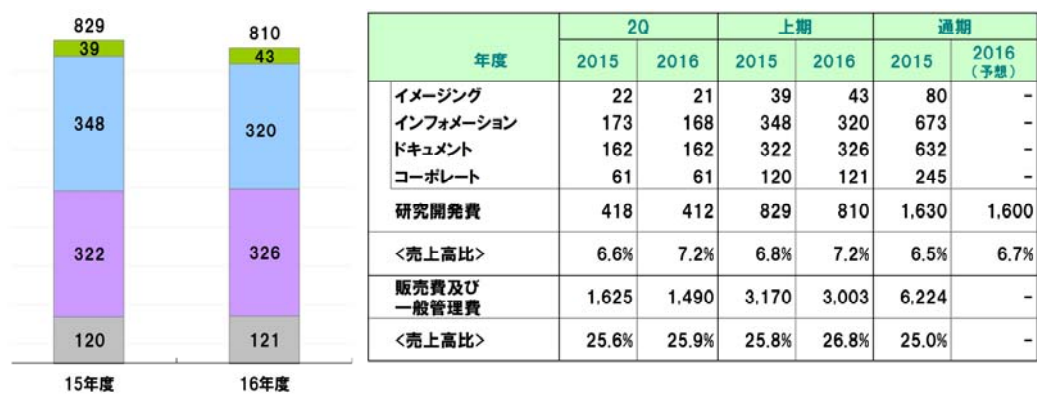
<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費及び一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

研究開発費(上期)

(単位:億円)



23

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位:円)

	2015年度						2016年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期(予想)
米ドル	121	122	122	122	115	120	108	102	105	105
ユーロ	134	136	135	133	128	133	122	114	118	117

### 原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2015年度						2016年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期(予想)
銀	64	60	62	58	54	60	57	63	59	60

### 人員

(単位:人)

	2015.9末	2015.12末	2016.3末	2016.6末	2016.9末
連結	78,158	77,928	78,150	78,882	78,976

<当スライドは配付資料です>



## 2016年度 セグメント別業績予想 (2016年10月27日時点)

売上高	2015年度	2016年度 (前回予想)	2016年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
イメージング	3,533	3,650	3,350	-300	-183
インフォメーション	9,642	9,850	9,350	-500	-292
ドキュメント	11,741	12,000	11,300	-700	-441
合計	24,916	25,500	24,000	-1,500	-916

\*セグメント間取引消去後

営業利益	2015年度	2016年度 (前回予想)	2016年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
イメージング	322	380	320	-60	-2
インフォメーション	941	1,020	940	-80	-1
ドキュメント	949	1,100	960	-140	11
全社/連結調整	-300	-300	-300	0	0
合計	1,912	2,200	1,920	-280	8

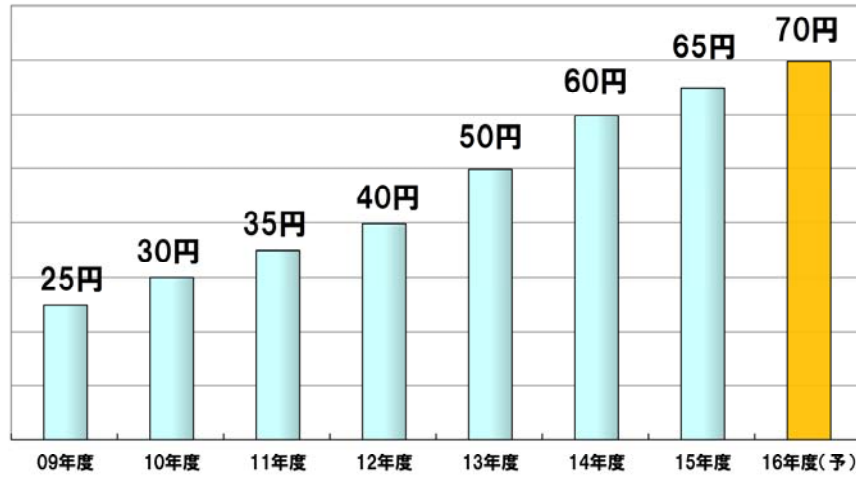
25

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 株主還元

### ■配当金

2016年度の配当金は、7期連続増配となる対前年5円増配の70円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

## パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠 <sup>®</sup> )
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	Ph II 実施中	
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬 <small>バイオ</small>	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了	
			米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発肺がん/卵巣がん治療薬	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
FF-21101	進行・再発非小細胞肺がん/肺がん治療薬 (Armed抗体) <small>バイオ</small>	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス(FKB)のFKB327(アタリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。FKBとアストラゼネカ社のJVのFKB238(ベバシズマブバイオシミラー)は、米国、欧州、その他でPh III 開始。

27

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### **富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### **富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2016**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual\\_reports/2016/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2016/index.html)

### **IRイベント資料**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2015年 12月 エレクトロニクスマテリアルズ事業説明会
- 2016年 3月 R&D説明会
- 2016年 5月 ドキュメント事業説明会

### **富士フィルムってどんな会社？**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

28

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を広げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>